

ハウツー読書会

江口聡

2019年5月21日

有元秀文先生の『ブッククラブで楽しむ学ぶクリティカル・リーディング入門』（ナカニシヤ出版、2010）の紹介。

1 読書会／ブッククラブの手順

- 「教員ぬきの大学ゼミ」でよいのだが、もっと気楽なブッククラブもよい。
- 2～6人程度の仲間を見つける。調子悪いやつは誘わない。
- 司会進行を決める。もちまわりがよい。
- 1時間から2時間程度。
- 短くてやさしい本から。良い本を探すのは難しいので、読書家にすすめてもらうのもよい。簡単な本だと思っけても複数で話し合うと意外なことが発見できる。
- (メンバー全員) 1週間ぐらい前に各自本を読む。大事なところに線をひいたり付箋をはったりして、ぱっと出せるようにしておく。読書ノートをつけてみるとよい。登場人物の相関図、シーケンスチャート≡あらすじ(出来事・心情の変化の一覧)、主題がなんであるか、キークエスト(重要な問い)を考える。
- ホストは場所と時間を決めて案内を出す。メンバー全員がすることは一番熱心にやっておく。Wikipediaなどで著者・時代背景などを調べておく。キークエストも10個ぐらい用意する。
- 当日、ホストが司会。各自自己紹介。読んだことについて面白かったところ、心に残ったところ、つまらなかった、など一人ひとり話してもらう。あとは自由にやる。話が本からあまりに離れてしまったら、ホストはキークエストを出して本題に戻る。最後に簡単にまとめる。
- 【注意事項】一人で話しすぎない。ずっと黙っていない。疑問点はすぐに聞く。おだやかに。テキストや自分の体験など根拠をあげる。本以外の話題にそれすぎない。一つの話題がだいたい決着するまで他の話題に移らない。

2 読み／問いのストラテジー

本を読む時、あるいは本について話し合う時、以下のような問いはほぼ常に役に立つ「ストラテジー」(戦略)。

2.1 背景的知识についての問い

基礎知識 基礎知識を確認する。作者・筆者の国籍、年齢、経歴、その本が書かれた事情、時代背景。蛇が出て来る物語なら蛇の形態や生態など。戦争小説だったらその戦争がどういう事情でいつ始まりいつ終わったか、など。

体験 題材と関連・類似する経験・体験を確認する。恋愛小説なら恋愛の経験、他人の恋愛のパターン、など。

2.2 正確な理解のための問い

キーワードの理解 キーワード＝重要な語 ≡ 他の本にあまり出てこないけどその本によく出てくる語。

キーセンテンスの理解 ストーリーの場合は、物語の展開で重要な文、登場人物の行動、感情。作者・語り手の感情、意見。論説の場合は以降論じられる課題・問題、重要な事実、筆者の意見や推論、結論、段落のまとめとなるセンテンス。

文章構造の理解 ストーリーの場合は、登場人物たちにとって問題（こまったこと）は何か、それをどう解決したか、うまく解決したか。語られる時間順序。論説の場合は論証の構造。

イラスト・図表の理解 登場人物の性格。グラフの目的。グラフの信頼性、わかりやすさ。

2.3 深い理解のための問い

解釈 登場人物はなぜ～の行動をとったか、作者はどうして～の表現をしたか。どの登場人物が大切か、主人公は誰か。どのようなことを教えようとしているか。

予測 テキストの途中で先を予測する。タイトル、表紙の絵、イラストなどから内容を予測する。物語が大きく展開するところで先を予測する。

要約 主人公にどのような問題が起きてどのように解決したか。

主題 主題はなにか？ 上のキーセンテンス（場面設定、登場人物の行動や感情、場面の展開に重要な役割を果たす箇所、作者の感情や考えが現れている箇所）を手がかりに考える。

2.4 発信のための問い

評価・批判 この話の終わり方をどう思うか、それに賛成か、反対か。ほかにもっとよい終わり方はあるか。特定の登場人物の行動についてどう思うか。特定の作者の文章表現についてどう思うか。イラストについてどう思うか。

解説 自分が登場人物や作者になったつもりで創造的な読みをする。もし自分が特定の登場人物だったらどうするか。作者だったらどう話を展開し、どう話を終わるか。話の終わりの先はどうなるか。

パーソナルリーディング 似たような経験をしたか、そのときあなたはどうしたか。今度同じことがあったらどうするか。あなたは登場人物と似ているか。どこが違うか。まわりに登場人物と似た人物がいるか。どこが同じでどこが違うか。似たような話を読んだことがあるか。どこが似ていてどこが違うか。

視点を変える問い それぞれの登場人物の視点に立って表現してみる。

参考文献

有元秀文 (2010) 『ブッククラブで楽しく学ぶクリティカル・リーディング入門』, ナカニシヤ出版.